

令和2年度授業改善推進プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(特別支援①) 教科担任名 近藤 裕子

★教科・観点について
生徒の状況などを分析し記入する。<○成果 ▲課題>

自立活動観点	1学期		2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
学習指導	○課題に集中し、学習し取り組むことができた。 ▲学習の習慣化、計画的な学習に課題がある。	・目標を設定した上でのスモールステップでの指導の継続。 ・確認テスト、検定などで努力を可視化させ、モチベーションを向上させる。	○自己の目標を達成する喜びを感じながら意欲を喚起できた。 ▲学習内容の定着のための習慣化に課題がある。	・ICT機器を活用し、より分かりやすい指導を行う。	
健康の保持	○自力登校することができた生徒が多い。 ▲生活習慣の乱れから集中力が低下している生徒が多い。	・「心身の健康」について、理論も学び、健康的な生活への意欲を高める。 ・生活習慣を見直し、家庭に協力してもらい起床・就寝時間を決める。	○生活習慣を整え、健康的な生活を送ることができた。 ▲一部の生徒には生活習慣の見直しが必要である。	・働くことを意識したライフスキルを身に付けさせる。	
心理的安定	○クラスと通級とを行き来し、安定して学校生活を送ることができている。 ▲見通しがもてなかったり、相手の意図がわからなかったりした時に自制がきかないことがある。	・行動を即時評価し、自信をもたせていく。 ・予定や情報を予め把握させ、起こりそうな事態を想定しシミュレーションしておく。	○教員との信頼関係の中で安心して学校生活を送ることができている。 ▲同年代との関わりにおいて自制がきかないことが多い。	・身に付けたスキルを実生活の中で生かしていく態度を育てる。	
人間関係の形成	○他者の意図や感情を理解し、信頼関係をもつことができる。 ▲自己肯定感が低く、消極的になり、集団への参加に課題がある。自己理解が十分にできていないので、不適切な対応をしてしまうことがある。	・体験的な活動を通して、自分の得手、不得手の理解を促す。また、他者の意図や感情を考え、対応方法を身に付ける方法を具体的に学ばせる。	○ロールプレイ、ケーススタディなどで他者の立場に立った考えを共有できた。 ▲実生活の中でスキルを活かしていく経験を増やす。	・身に付けたスキルを実生活の中で生かしていく態度を育てる。	
環境把握	○トレーニングをする中で、視覚、聴覚からの情報処理がスムーズになってきた。 ▲認知や行動の手掛かりとなる概念形成に課題がある。	・感覚機能を高めるトレーニングの継続。 ・推論し、イメージする力の形成を重点的に行う。	○トレーニングをする中で、視覚、聴覚からの情報処理がスムーズになってきた。 ▲自己理解を深め、苦手なことは支援要請できるようにする。	・提出物などセルフマネジメント力を身に付ける。	
身体の動き	○微細運動は意識をして丁寧に作業することが増えた。 ▲粗大運動での機敏さ、持続性を向上させたい。	・微細運動は継続して、正確性、巧緻性を高める。 ・簡単に楽しめるスポーツ種目を通して、ボディイメージ、後感性、持続性を向上させる。	○目と手の供給の力の向上がみられた。 ▲ビジュアルトレーニングを通して、さらに見る力を高めていく。	・ビジュアルトレーニングの継続。	
コミュニケーション	○対人関係スキルは着実に身に付いてきている。 ▲場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開することは難しい。	・般化につながる実践的、体験的な指導を増やす。 ・体験的な指導を増やす。	○ロールプレイなどで他者の気持ちに立った言動を考えることができた。 ▲小集団の中で適切なコミュニケーションを取れるようになる。	・小集団での活動の場面で、場に応じたコミュニケーション能力を身に付けさせる。	
授業改善の検証方法	・学年会や担任会、ケース会での報告や連携の中で行う。 ・生徒・保護者へのアンケートや面談の中で行う。		・学年会や担任会、ケース会での報告や連携の中で行う。 ・生徒・保護者へのアンケートや面談の中で行う。		
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題
自己理解を深めさせる	教員との安心した信頼関係の中で、成功体験を積み重ねていく。また、具体的な場面の想定や実践的な活動の中で、言動を振り返る活動を行う。自己理解を深めさせ、適切なコミュニケーションのスキルを使えるようにする。	○教員との信頼関係を軸にして、通級とクラスを行き来し、活動することができた。 ▲自己理解を深め、自分の特性を考えて行動できるようにすることが課題である。	ロールプレイやケーススタディを多く取り入れ、他者の気持ちを考えた言動を学ばせる。また、コグトレやビジュアルトレーニングで認知直、処理速度の力を付ける。	○トレーニングを重ね、視覚認知力や注意力の向上が見られ、自己肯定感が上がった。 ▲アンガーマネジメント、アサーションなど生活の中で実践していく。	